

## 企業経営基盤強化等セミナー（事業承継セミナー） ～後継者問題を先送りしていませんか～

### プログラム

- ◎ 日 時 令和 6 年 8 月 28 日（水）13：30 ～ 15：30
- ◎ 会 場 オリエンタルホテル福岡 博多ステーション 3 階 YAMAKASA  
福岡市博多区博多駅中央街 4-23
- ◎ 主 催 （公財）九州運輸振興センター
- ◎ 協力団体 九州旅客船協会連合会、九州地方海運組合連合会、  
全国内航タンカー海運組合西部支部
- ◎ 後 援 J R 九州
- ◎ スケジュール
- 13：30 開 会
- 13：30 主催者挨拶 公益財団法人 九州運輸振興センター  
コロキアム等実行委員長 大黒 伊勢夫
- 13：35 講 演
- 第 1 部（20 分）
- 講 師 九州産業大学 地域共創学部地域づくり学科 准教授 行平 真也 氏
- テーマ 「九州管内における海運事業者の事業承継の現状について」
- <休憩 5～10 分程度>
- 第 2 部（80 分）
- 講 師 福岡県事業承継・引継ぎ支援センター  
サブマネージャー 廣門 和久 氏（中小企業診断士）
- テーマ 「～円滑に事業承継を進めるため、今から準備を始めませんか？～」
- 15：30 閉 会

#### 第 1 部 講師プロフィール

##### 行平真也（ゆきひら まさや）氏

2008 年 4 月 大分県入庁

2016 年 4 月 大島商船高等専門学校 商船学科 助教

2017 年 4 月 大島商船高等専門学校 商船学科 准教授

2019 年 4 月 九州産業大学 地域共創学部  
地域づくり学科 講師

2024 年 4 月 同上 准教授 現在に至る

2023 年度「九州管内における海運事業者の事業継続実態調査」（九州運輸振興センター委託事業）を担当

国土交通省九州運輸局地域公共交通に関する第三者評価委員会 委員

総務省地域力創造アドバイザー

#### 第 2 部 講師プロフィール

##### 廣門和久（ひろかど かずひさ）氏

2013 年 4 月 和み経営コンサルティング設立 代表

2018 年 6 月 （一社）福岡県中小企業診断士協会 常任理事

2018 年 6 月 福岡県事業承継支援ネットワーク  
ブロックコーディネーター

2021 年 4 月 福岡県事業承継・引継ぎ支援センター  
親族承継担当サブマネージャー

2018 年、現在の前身である福岡県事業承継支援ネットワークの立ち上げメンバーとして親族承継の相談対応に従事。

2021 年に福岡県事業承継・引継ぎ支援センターに統合され、親族承継担当サブマネージャーに就任し、親族承継のご相談、事業承継計画書策定の支援、セミナー等を担当

中小企業診断士（国家資格）、M F A（芸術修士）



大黒コロキアム等実行委員長挨拶



参加者の様子



第1部：行平講師



第2部：廣門講師



## 九州管内における海運事業者の 事業承継の現状について

九州産業大学 地域共創学部地域づくり学科

准教授 行 平 真 也

日  
場  
主  
後

時 所 令和 6 年 8 月 28 日（水）  
所 催 オリエンタルホテル福岡 博多ステーション  
援 （公財）九州運輸振興センター  
J R 九州

協力団体 九州地方海運組合連合会  
九州旅客船協会連合会  
全国内航タンカー海運組合西部支部  
助 成 日本財団

九州産業大学地域共創学部の行平と申します。

本日は、公益財団法人九州運輸振興センターの受託研究「九州管内における海運事業者の事業承継の現状について」に関する調査報告をいたします。

まず調査の目的についてです。

中小企業、経営の厳しい中で事業承継の問題が今取り沙汰されています。離島を多く抱える九州にとって、海事海運事業は生活物資や人の移動、輸送に関して非常に重要な役割を担っています

少子高齢化が急速に進む中で、労働力不足や後継者不足など厳しい現状があり、大きな課題になっています。

そこで現状を把握するために調査を行いました。調査の対象につきましては、九州地方海運組合連合会・九州旅客船協会連合会・全国内航タンカー海運組合西部支部にご協力を頂きました。ただし九州旅客船協会連合会に加盟されている自治体については対象外としました。

477社にアンケートを依頼したところ、回収率48・8%で、このような調査としてはかなり高い回収率となっています。

対象事業所の規模についてです

すが、資本金5,000万円以下の会社がほとんどで、やはり小規模な会社が多く、従業員が5名〜10名以下の会社が4割強となっています。

その中で何代目かという質問において、創業者という方が約1割、9割弱の方が事業承継されていて2代、3代という状況です。

分析をする上で年代を、50歳未満、50代、60代、70歳以上と分けました。

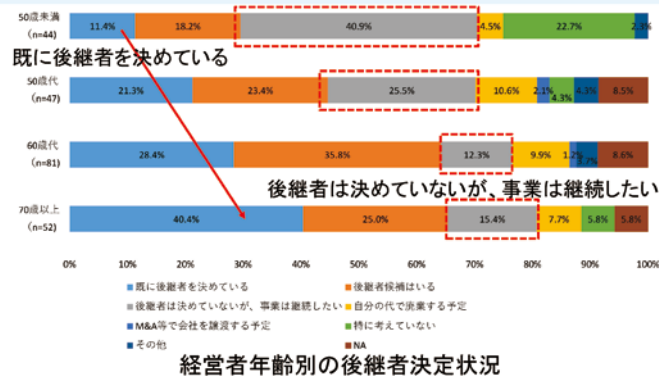
### 調査結果

経営者の方の年齢・年代によって、事業承継に関する思いや考え、状況が異なっています。

・回答者の属性…主な業種内航海運業（船舶を所有する貸渡

### 経営者年齢別の後継者決定状況

- 経営者年齢別の後継者決定状況は、経営者の年齢が上がるほど後継者を決めている割合が高くなっていった。
- 60歳代の12.3%、70歳以上の15.4%が「後継者は決めていないが、事業は継続したい」と回答していた。



経営者年齢別の後継者決定状況

資料 1

業）が最も多く、次いで旅客航路事業となっています。

・経営者年齢別の後継者決定状況  
経営者の年齢が経るごとに後継者を決定している割合が上がっています。

後継者は決めていないが事業は継続したい方については、60代12・3%、70代15・4%となっています。後継者は決めていないが事業継



## 円滑に事業承継を進めるため、 今から準備を始めませんか？

福岡県事業承継・引継ぎ支援センター サブマネージャー

中小企業診断士 廣 門 和 久

日  
場  
主  
後

時  
所  
催  
援

令和6年8月28日（水）  
オリエンタルホテル福岡 博多ステーション  
（公財）九州運輸振興センター  
JR九州

協  
力  
団  
体  
助  
成

九州旅客船協会連合会  
九州地方海運組合連合会  
全国内航タンカー海運組合西部支部  
日本財団

福岡県事業承継・引継ぎ支援センター、サブマネージャー、廣門と申します。親族承継を担当しております。

本日はよろしくお願い致します。

### ・事業承継とは

1点目、事業承継とは、現経営者から後継者へ事業のバトンタッチを行うことであり、企業がこれまで培ってきた様々な経営資源を円滑に引き継ぐこと。

2点目、事業を渡す者、現経営者は引き継ぐ者ができるだけ順調に事業運営が行えるように多面的に事業を磨き上げるとともに支援を行う必要がある。

3点目、事業を引き継ぐ者、後継者は良い伝統を守りつつも新たな知識技術を用いて事業の成長を成し遂げなければならない。

この3点を念頭に置きながら事業承継を進めていきたいと考えています。

現経営者から後継者へ引き継ぐものは様々あります。よく言われてい

るものがヒト（経営）、モノ・カネ（資産）、そして目に見にくい経営資源（知的財産）です。

ヒトの部分は経営権の部分となります。一番関心があると思われるのがモノ・カネで自社の株や事業用資産（設備、不動産）、資金ですが、運転資金だけではなく借入金も資金となります。他にも経営者保証などがあります。日本の99%以上が中小企業となっていて、会社の株の一部は経営者保有、個人資産が含まれると思っています。そこには必ず贈与や相続の問題が発生してきますので、会計士や税理士に相談されているのではないのでしょうか。

目に見えにくい経営資源ですが、事業を進めていく上で重要なこと、例えば経営理念、経営者の信用、取引先との人脈等々。ここが一番大切だと考えています。企業ブランドや従業員のチームワークなど、目に見えにくいこれらが、会社の強みであり稼ぐ力になっていると思います。そして一度失くしてしまうと取り戻すことは非常に難しい。これは事業継承にとって重要なポイントで、時

間を要する部分となります。

事業承継成功のカギは現経営者が、バトンタッチをする日を決めることです。成功に導くためにはゴールをまず決めること、着地点を決めることで必要な条件がわかってきます。条件が揃うとスケジュールが立案でき、スケジュールができるとうやく人は行動に移せると言われています。そしてその行動を実行に移すと成果が出るということです。

今日を例えとするなら、1時半からこの講演が始まるので、1時には博多駅に着きたい、そこまで何を使ってくるのか、では何時に会社を出るのかということを決めて、今こうして講演を聞いているわけです。事業承継も同様でまずゴールをしっかりと見据えてやっていく。現代表者のバトンタッチの日を決めるといふことを重視していきたいと思っています。

### ・事業承継の現状

事業承継は3つの分類に分けています。